

目的 急激な経済成長を経て、わたしたちの生活の中には多くのモノが持ち込まれ食生活も家族各員の生活様式を反映して多様化して来た。食生活の拠点である台所も従来は、都市・農村でそれぞれ特色が見られたけれども、住居の狭小化・家電製品の普及・情報量の増大・熱源の変化・給水方法の画一化・炊事担当者の生活の変化などによりこの差が少なくなってきた。そこで「調理設備・器具などについての調査」から、台所に収められている調理器具の現状と営まれる食生活のようすを関連させて考察することは、食生活をトータルに把握する一手段ではないかと思われる。今回は、核家族・拡大家族と器具の保有状況、炊事担当者の職業と器具の保有状況、地域差などからその食生活を検討した。

方法 「調理設備・器具などについての調査」から、家族類型別、炊事担当者の職業別に器具の保有・使用状況について集計し検討した。

結果 有効回答 965 (核家族世帯 675, 拡大家族世帯 290)。調査した器具 150 種を食品の収納・貯蔵, 計量, 洗浄, 切断, 磨砕攪拌混合, 加熱などの調理操作に大別した。個々には①冷凍冷蔵庫の保有率は核・拡大家族ともに 90% を示している。1ドア冷蔵庫専用冷凍庫, つぼ・かめでは拡大家族の保有率が高く, 不使用率は低い。②計量カップ・スプーンについてはカップは 90% 以上で差はないがスプーンの使用は核家族に多く, まずは拡大家族で多く使用。③もちつき器, うすきね・こね鉢・のし板・めん棒の保有使用は拡大家族で多く, シモン絞り・ポリン型・ゴムヘラなど洋風・趣味的なものは核家族が多かった。ともに保有率の高いものには, すりばち・すりこ木・おろし金もあった。